

# 大崎の伝統工芸

Traditional Crafts Of Osaki

Naruko Traditional Wooden Dolls

## 鳴子伝統こけし

あどけなく、純粹な子ども  
の心を思わせるように微笑む  
こけし。こけしには雪深い東北  
の厳しい風土に生きる人々の  
喜びや悲しみが深く息づいて  
いるようだ。文献や伝承によ  
ると、鳴子温泉地域でこけし  
が作られるようになったのは、  
江戸時代末期と推定されてい  
る。鳴子こけしの伝統は、親か  
ら子、師から弟子へと従弟制

度の厳しきの中で伝えられそ  
れぞれの特徴が受け継がれて  
きた。  
大きな頭、中程がやや細く  
なった安定感のある胴と菊の  
模様は、鳴子こけしの大きな  
特徴として親しまれている。首  
を胴に差し込んだ「はめ込み  
式」の構造で、首を回すと  
「キュッキュ」と音が出るこ  
とが特徴。



## 鳴子漆器



Naruko Lacquerware

鳴子漆器の創始は今から  
350年以上も前の寛永年  
間（1624年～1643  
年）と伝えられている。その後、  
岩出山伊達家三代当主伊達  
弾正敏親が、塗師の田村卯兵  
衛と時絵師の菊田三蔵を京都  
に派遣して修行させ、鳴子漆  
器の振興を図ったとされてい  
る。18世紀後半に書かれた「鳴  
子村風土記書出」において、木  
地挽物と共に塗物が鳴子の産  
物として記録されていることか  
ら、このころにはすでに鳴子の  
主要産物だったようだ。また、  
19世紀初頭の「漆出高記」に  
は、鳴子で漆の採取が行われて

いたことが記録されている。そ  
の後幾多の技術革新を遂げな  
がら、現代まで受け継がれてき  
た鳴子漆器。

魅力は何と言っても、木目を  
生かした素朴な風合いと、しつ  
とりとした塗りの美しさ。工芸  
品としての価値もさることな  
がら、お椀、箸、お盆、菓子器な  
ど、日常使いに適した製品が数  
多くつくられているのも鳴子  
漆器ならではの。木地に厚みがあ  
り丈夫で、幾重もの重ね塗り  
により耐久性にも優れている  
ので、愛着を持って長く使用す  
ることが出来る。

Iwadeyama Bamboo Crafts

## 岩出山しの竹細工

岩出山第四代城主・伊達村  
泰公が武士の手仕事として奨  
励し、以来300年以上作り  
続けられてきた伝統的な工芸  
品。柔軟で弾力がある「しの  
竹」の特徴を生かしたざるやか  
ごなど、さまざまな製品があ  
る。なめらかな表皮を内側に  
編みこむことで、手なじみも抜  
群。岩出山の『竹工芸館』では  
竹製品の製作・実演などが見  
学できるほか、手づくり体験教  
室も開催。竹細工指導員の丁  
寧な指導のもと、世界にたつた  
ひとつの竹細工を製作するこ

とができる。  
またギャラリーには伝統の竹  
製品をはじめ、ガラス・陶器な  
どを組み合わせた作品・オブ  
ジェなども展示。竹の魅力を身  
近に感じることが出来る。

